

Time interval from left ventricular stimulation to QRS onset is a novel predictor of nonresponse to cardiac resynchronization therapy

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 柳下, 大悟 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032495

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 3041 号	氏 名	柳下 大悟
審 査 委 員 会	主 査 教 授	布田 伸一	
論文審査の要旨 (400 字以内)			
<p>心臓再同期療法 (CRT) 無効例の一因は左室リード局所の瘢痕組織による伝導障害の可能性がある。局所伝導はペーシングから QRS までの時間 (S-QRS) で評価され、本研究は S-QRS と CRT 効果の関連性を検討した。6 ヶ月後の左室収縮末期容積 15% 以上の改善を有効例と定義した。CRT 患者 52 症例を解析し 32 症例 (61.5%) が有効例であった。有効例に比べ無効例の S-QRS は有意に延長した (30.8 ± 9.5 vs 53.1 ± 17.4 msec, $P < 0.01$)。CRT 効果予測の S-QRS 至適値は 37 msec で (感度 81%、特異度 90%)、S-QRS 37 msec 未満の群で有効例は有意に高く、QRS 幅も有意に短縮した。多変量解析では S-QRS (オッズ比 0.014; $P < 0.01$) のみが CRT 効果の独立予測因子であった。局所伝導性を反映する S-QRS は CRT 効果と QRS 幅に寄与し、CRT 無効例の予測指標となりうる。</p> <p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p>			